

東京大学 2013 年度 入学式 式辞 2013 年 4 月 12 日

黒川 清 東京大学名誉教授

本日の入学式にお招きいただき、大変うれしく思います。

新入生の皆さんに 心からお祝い申し上げます。 おめでとう。

福島、宮城、岩手の 3 県からの皆さん、本当に おめでとう。

福島県 相馬高校の いなむら たける君 そしてご両親 本当に おめでとう。 そして松村先生 ありがとうございます。

●ずいぶん以前の話ですが 私は 東大の医学部を卒業し 数年して渡米 14 年余りを日本の組織から独立した「個人」として 米国の大学で 医師として教育 研究 診療 に従事し それなりのキャリアを積んできました。

その年月のあいだに「外から見える日本」「日本にいるときには」 気付かなかった日本が よく見えるようになりました 「良い所も 弱い所も」。 気になるのですね 自らの国ですから。

予想もしなかったいきさつで 15 年後に帰国。 それ以来 多様な機会をいただき、そのつど 「世界の中の日本」という枠組みで 自分の責務を考え 行動し 日本社会の在りよう 日本の大学について いろいろと発言をしてきました。

この一年数か月は 国会の福島原発事故 調査委員会の委員長として 私のことをご存知の方も おられるでしょう。 「この委員長とは どんなひと？」 と思った方も多いでしょう。

私のことは 「グーグルする」と もっと知ることができます。

今日の機会を与えてくださった、浜田総長以下、関係者の方々に感謝します。

●東大は日本のトップ 世界有数の大学です。 しかし 陰りが見え始めています。

「秋の卒業や入学」「入試の在り方」などの検討は 東大の危機感の表れの一つです。

しかし これらは もっと大きな目標への手段の一つにすぎません。

東大が発表するから メディアが書き 社会が注目し 社会の変革のきっかけになるのです。 東大にはそのような「日本での責任」があるのです。

●ところで 世界の意欲ある若者たちを ひきつける 世界の一流大学は、この10年 学部教育を大きく変化させています。 国際性 多様性であり 学部時代の 海外 そして 異文化の体験 を重視しているのです。

なぜでしょう。

●この20年 世界は激変しました 「グローバル世界」です。 日本の経済成長は止まり あなたたちは 物心ついたころから あまり明るい話を聞いたことがないと思います。

世界は相互依存を強めながら 予想を超えるスピードで変わり この変化はさらに加速されるでしょう。

グローバル世界では 多様性 異質性 しかも「異能 異端の人」 「ユニーク」である ことなどが 大きな価値と可能性を持つ タテからヨコへ広がる世界と社会 そして 柔軟な組織へと向かっています。

個人個人の力量が 世界から見えてしまう「フラットな世界」。 そんな中で 大学も どんな学生を育てているのか 世界から見られ 評価されるのです。

●世界の経済と政治の均衡がシフトしはじめ 国家統治と財政 産業 経済はダイナミックに変化し 格差 人種 宗教などの違いで 衝突が起こり易い 脆弱な世界になっています。 地域の小さな衝突が 世界に大きな影響を及ぼすのです。

将来を担う 広い世界の同世代が 相互理解を深める、 国家を超えた 多様で 多彩な 個人のつながりと信頼こそが これからの世界には 必須の要件であると、世界の一流大学は認識している。 多角的に 自分を見る、世界を見る 考えられる 人材に育てる その責任を果たそうと 努力しているのです。

均一性の高い組織は このような世界の 多様な 多彩な違いに 気が付きにくい 対応しにくいのです。

●あなたたちの 4人に1人が 東大合格者数で トップ10の高校の卒業生 あなたたちの5人に2人が トップ20の高校の卒業生。 多くが中学高校の6年間 同じ学校で学び 入学試験で選抜され 今日を迎えたのです。

あなたたちのなかの 女子学生は 19%弱。 この10年 平均20%に届くかどうかです。 合格率は男女でほぼ同じ。 つまり女性が受験しない社会的背景があるのです。 日本の主要大学の中で 東大の女子学生比率は 最低レベルです。

皆さんがすぐに思いつく世界の大学、Harvard、Cambridge、Stanford、Princetonなど 学部生は 男女半々です。 各大学が目標へ向けて 努力しているのです。 さらに 米国の一流大学の例 たとえばアイヴィーリーグ8大学では その4大学で 女性が学長です。

東大の弱さは 多様性に欠ける 均質性が高い 国際性が低いこと。 教員も 学生も 男性が多く 女性も 外国人も少ないのです。

●自分の「良さ」「強さ」 そして「弱さ」は 違った環境に出てこそ はじめて認識できるものです。

グローバル世界の中での 自分の「強さ 良さ」 そして 「弱さ」 を知ることは とても大事です。

「自分を過信することなく「弱い」所を 知ること」で 謙虚になれる。

その謙虚さこそが 自分の「弱さ」を生かす 「本当の自信」を生み出すでしょう。

「自分を過信せず 謙虚に」 これこそが グローバル世界で どんな活動をするにしても あなたたちの「自信」となるのです。

●「ムーク MOOC」の衝撃

世界ではとんでもないことが起こっています。デジタル時代の画期的な教育法「**ムーク MOOC**」“Massive Open Online Courses”です。

Stanford、MIT、Harvard、Berkeleyなどの大学の授業を だれでも いつでも しかも無料で On-line で受けることができます。自分の成績を これらの大学の学生たち世界の若者たちと 共有できる 評価できるのです。世界の何千人、何万人という若者たちが参加している授業もあります。

大いに活用してください。自分の力がわかる 視野が広がる 世界が広がっていくのを 実感できるでしょう。

日本の大学では 教育に対する評価が 軽視されてきました。「学生による授業評価」に批判的な先生が 多いのも事実です。しかし「ムーク」によって 授業や教授の評価が 世界にオープンになってきた。大学教育の革命です。

大学は 先生にとっても 学生にとっても 世界に「オープン」な「学びの場」になってきたのです。

デジタル技術は 皆さん一人一人に、社会の肩書も 国籍も 国境も超えて 自分の可能性を追求する力を 与えている、「ムーク」で自分の可能性を さらに広げることができるのです。

ムークを受けるうちに 海外の大学へ行きたいと考え始める人も あなたたちの中に出てくるでしょう。とんでもないこと と思われるかもしれませんが それは可能なのです。

あなたたち一人一人の選択です。

●グローバル世界での あなたの価値をつくる これがあなたたち一人一人の、これからの世界での「ユニークな自分のキャリア」なのです。

「ユニークな自分のキャリア」を作る、これは あなたたち一人一人の選択です。

●休学のすすめ

いくら知識があっても、実体験のないことは 所詮ヴァーチャル、頭の中の出来事です。実体験ほど大切なことはありません。

これらからの世界の将来を 一緒に背負っていく世界の仲間たちを知ることは 自分の将来にとって とても大事なことです。

このような仲間が 世界に広がる ネットでつながっていることができる。日本と世界の 多彩な人たちを結ぶ「ハブ」に あなたたち一人一人が なれるのです。

ここにも東大の「秋卒業」「秋入学」のメッセージがあるのです。春でも、夏でも、秋でも 冬でも、休みのときには、まずは社会体験をする、いろいろ違った世界へ出かけてみることです。

●私は 特に海外へ出てみることを 皆さんにすすめます。

なぜ「海外」か？

それは自分の将来にとって グローバル世界の課題と 自分の可能性に気付く機会が 飛躍的に増えるからです。

そして 日本を「外から」見る 自分と日本の「良さ 強さ そして 弱さ」を感じ取れる より大きな枠組みで日本を見ることができるからです。意識が大きく変わっていく 成長していく自分を 実感するでしょう。そのような機会を 積極的に増やすことです。

時には「自分のしたいことはこれだ、、、」 と気が付くことも あるでしょう。それは心のときめきか 直感か。心がざわめく 「それ」が好きだから 自分の「心の声」だから 夢中になれるのです。

海外の大学へ 短期留学もよし 企業や政府や NGO でのインターン、ボランティアもよし AIESEC 海外インターンシップ ギャップターム ギャップイヤー などなど 自分で行動する機会はいくらでもあるのです。

思い切って「休学する」のも 賢い選択です。

世界に出ることで 自分の夢 大きな目標に目覚め 活躍している 多くの若者を 知っています。 そんな東大生を何人も知っています。 これらの皆さんが 見違えるような成長をしているのです。

だからこそ「外へ出てみる」 「休学のすすめ」なのです。

世界の自分を見つける 「休学のすすめ」です。

●これからの世界の変わりようは だれにも予測できません。 今日、新しい人生の出発点に立ったあなたたちが それぞれに 世界の中で 自分の大きな夢を見つけ 充実した刺激に満ちた毎日を過せれば、こんなに素敵な人生はないでしょう。

「いまを生きる」というアメリカ映画があります。 寄宿舍生活の「エリート」高校の 先生と生徒の交流のものがたりです。 私は なぜか とても とても 感動しました。

素晴らしい言葉が いくつも出てくるのです。 なかでも「Carpe Diem」というラテン語、「いまを生きる」「今日をつかむ」 この言葉が 私の 心に とても響いたのです。

私も 色紙（シキシ）や 本に メッセージを求められることがあります。

いつも「Carpe Diem 今日をつかむ」と書きます。

あなたたちの これからの毎日が「Carpe Diem 今日をつかむ」であるとすれば 本当に素晴らしいことです。

「Carpe Diem 今日をつかむ」。

●皆さん おめでとう。

「終わり」